



あのとぎの常呂・写真館

VOL 3

(1964年)

昭和39年11月1-3日 第11回常呂町文化祭

- ▶下の写真2枚は、11月1日に行われた常呂町功労者表彰式と公民館正面の看板、右上・中央は11月3日の芸能発表、右下は1-3日までの作品展示。会場は昭和36年11月に完成・開館した中央公民館です。
- ▶この第11回文化祭では、展示は9団体(絵画・写真・俳句・書道・華道・菊・手芸)、舞台発表は昼・夜の2部制で常呂高校ブラスバンド演奏、日本舞踊・ピアノ演奏・琴・民謡・バレエ・合唱に加え、婦人会、かもめ保育所とめぐみ保育園の子どもたちも参加し、盛りだくさんの内容でした。



- ▶常呂町文化祭の第1回は、昭和29年11月1-2日の2日間、教育委員会主催で常呂中学校と常呂高校を会場に行われました。1日は、弁論と講演、そして歌詞を一般公募した「常呂小唄」と「常呂音頭」の発表、2日は小中高の歌や演劇、婦人会・演劇同好会・地域青年団の合唱や演劇という内容でした。とりわけ、地域青年団の勢いがあった時代だったこともあり、弁論の部では岐阜・豊川・共立・富丘・日吉の各青年団が参加、演劇は豊川・岐阜が上演しています。この傾向は、常呂図書館にある第2回・第4回・第5回文化祭資料でも変わっていません。また、昭和34年11月号の「広報ところ」では、文化祭と併せて行った常青協10周年記念式典に団員200人が出席、常呂劇場で行った夜の部の演劇発表には800人の観客が来場し、終了が夜中の12時過ぎと伝えています。
- ▶文化祭の会場は、第2回以降、作品展示と弁論大会は常呂小学校、演劇などの舞台発表は常呂劇場になり、昭和36年からは、この年完成した中央公民館ですべての催しをするようになりました。
- ▶残念ながら第6回から第10回までの文化祭の内容を知る資料は、第7回(昭和35年)のチラシがあるのみで、第7回のチラシからは変化は感じられません。
- ▶小中高や青年団が中心の文化祭が、文化連盟加盟団体中心の文化祭に変わっていったのは、文化活動の拠点として中央公民館が整備(昭和36年11月開館)されたことと常呂町文化連盟の結成(昭和37年11月)が大きな要素だと思われます。
昭和37年11月発行・創刊号の文化連盟機関紙「新墾(にいばり)」で紹介している加盟団体は、邦楽(藤間流・民謡同好会・箏萩会)、絵画(オホーツク画会)、写真(北潮会・写友会)、俳句(蛙声会)、茶道(小林社中・杉江社中)、華道(小野社中・松月堂古流)、菊花同好会、バレエ後援会、ピアノ教室、人形劇グループ、LP同好会の計16団体。その後、「新墾第9号」(昭和43年12月)には、松石会(木石)、手芸サークル、書道サークル、読書サークル、マジシャンズクラブ、尺八同好会、コーラス同好会などが増え、文化活動の広がりや文化連盟の充実がうかがえます。
- ▶ところで、常呂町青年団体協議会(常青協)は、昭和38年度の全道青年大会に演劇で出場したり、44年度同大会には相撲で出場しますが、会員の減少により昭和41年に共立青年団、43年には豊川青年団が解散します。その後、地域を基盤とする活動が難しくなったという状況変化とスポーツ・文化活動の活発化を図るために、昭和47年4月からサークル制の青年団に移行します。



- ▶左の写真は、昭和46年第18回文化祭の合唱です。青年団のメンバーも入っているのかもしれませんが。ちなみに、昭和53年度の全道青年大会では常青協の「クレッシェンド」が最優秀賞を受賞し、全国大会に出場しています。